

貯法：室温保存

有効期間：3年

カネパス

KANEPAS

承認番号 20800AMZ00374000

販売開始 1996年4月

2. 禁忌（次の患者には投与しないこと）

損傷皮膚及び粘膜には使用しないこと [刺激作用を有する。]

3. 組成・性状

3.1 組成

有効成分	100mL 中 日局 濃ベンザルコニウム塩化物液 50 0.4g (ベンザルコニウム塩化物として0.2g)
添加剤	エタノール、グリセリン

3.2 製剤の性状

性状	無色澄明の液で特異なおいがある。 揮発性である。
----	-----------------------------

4. 効能又は効果

医療施設における医師、看護師等の医療従事者の手指消毒

6. 用法及び用量

〈術前・術後の術者の手指消毒の場合〉

手指及び前腕部を石けんでよく洗浄し、水で石けん分を十分洗い落とした後、本剤約3mLを手掌に取り、乾燥するまで摩擦し、更にこの本剤による消毒を2回繰り返す。

〈医療従事者の通常の手指消毒の場合〉

本剤約3mLを1回手掌に取り、乾燥するまで摩擦する。ただし、血清、膿汁等の有機物が付着している場合は、十分に洗い落とした後、本剤による消毒を行う。

11. 副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には使用を中止するなど適切な処置を行うこと。

11.2 その他の副作用

	頻度不明
過敏症	紅斑、そう痒感、浮腫等
皮膚	刺激症状

14. 適用上の注意

14.1 薬剤使用時の注意

- 14.1.1 手指消毒以外の目的には使用しないこと。
- 14.1.2 本剤は希釈せず、原液のまま使用すること。
- 14.1.3 眼に入らないよう注意すること。入った場合には水でよく洗い流すこと。
- 14.1.4 反復使用した場合には脱脂等による皮膚荒れを起こすことがあるので注意すること。
- 14.1.5 血清、膿汁等の有機性物質は殺菌作用を減弱させるので、これらが付着している場合は十分に洗い落としてから使用すること。

14.1.6 石けん類は本剤の殺菌作用を弱めるので、予備洗浄に用いた石けん分を十分に洗い落としてから使用すること。

14.1.7 引火性があり、爆発の危険性もあるため、火気には十分注意すること。

14.1.8 本剤で消毒した手指で2.5kg以下の低出生体重児を取扱う場合、低出生体重児の皮膚がかぶれることがあるので十分注意すること。

18. 薬効薬理

18.1 作用機序

タンパク質変性及び酵素の切断、糖の分解と乳酸の酸化など代謝への作用、膜透過性障害による溶菌、リン及びカリウムの漏出、解糖の促進、原形質膜の活動を支える酵素に対する作用などが考えられている¹⁾。

18.2 殺菌作用

18.2.1 グラム陽性、陰性菌のみならず、芽胞のない細菌やカビ類といった真菌類に対しても殺菌作用を有する。結核菌及び大部分のウイルスに対する殺菌効果は期待できない。エタノール液は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）を含むグラム陽性菌6株及びグラム陰性菌8株の院内感染起因菌に対し殺菌効果、ウイルスの一部（アデノウイルス5型、ポリオウイルス2型、インフルエンザウイルスA香港型、ムンプスウイルス、単純ヘルペスウイルス1型）に対し不活化効果を示すが、炭疽菌、破傷風菌などの芽胞形成細菌に対する殺菌効果は期待できない¹⁾。

18.2.2 殺菌力試験

カネパスのMIC（最小発育阻止濃度）²⁾

供試菌	濃度 (mg/mL) 注)
<i>Pseudomonas aeruginosa</i> IF0 13275	0.15
<i>Proteus vulgaris</i> IF0 3988	0.15
<i>Escherichia coli</i> IF0 3806	0.15
<i>Serratia marcescens</i> IF0 12648	0.20
<i>Enterobacter cloacae</i> IF0 13535	0.15
<i>Staphylococcus aureus</i> IF0 12732	0.10

注) ベンザルコニウム塩化物としての濃度

19. 有効成分に関する理化学的知見

一般的名称：ベンザルコニウム塩化物

(Benzalkonium Chloride)

化学名：Ammonium, alkyldimethyl (phenylmethyl)-, chloride

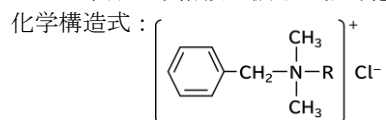
分子式：[C₆H₅CH₂N(CH₃)₂R]ClR：C₈H₁₇～C₁₈H₃₇で主としてC₁₂H₂₅及びC₁₄H₂₉からなる分子量：354.01 (C₂₂H₄₀ClNとして)

性状：白色～黄白色の粉末又は無色～淡黄色のゼラチン状の小片、ゼリー様の流動体若しくは塊で、特異なおいがある。

水又はエタノール（95）に極めて溶けやすく、ジエ

チルエーテルにほとんど溶けない。

本品の水溶液は振ると強く泡立つ。



R：C₈H₁₇～C₁₈H₃₇で主としてC₁₂H₂₅及びC₁₄H₂₉からなる

20. 取扱い上の注意

火気を避けて保存すること。

22. 包装

100mL [ポリ容器]、300mL [ポリ減容容器]、500mL [ポリ減容容器]、1000mL [ポリ減容容器]、5L [ポリ減容容器]、10L [ポリ容器]

23. 主要文献

- 1) 第十八改正日本薬局方解説書：廣川書店，2021；C-5320-5324
- 2) 社内資料：殺菌力試験（Dat01-004）

24. 文献請求先及び問い合わせ先

兼一薬品工業株式会社 医薬情報室
〒555-0033 大阪府大阪市西淀川区姫島3丁目5番23号
TEL 06-6471-3548
FAX 06-6471-5659

25. 保険給付上の注意

本剤は保険給付の対象とならない（薬価基準未収載）。

26. 製造販売業者等

26.1 製造販売元

兼一薬品工業株式会社
〒555-0033 大阪府大阪市西淀川区姫島3丁目5番23号